

日建リース工業・東宏

# トンネル工事向け製品開発

## 仮設材活用シート台車

日建リース工業(本社)

|| 東京都千代田区、関  
山正勝社長)と東宏(本  
社)札幌市、小林雅彦  
社長)は18日、仮設足



台車使用イメージ(上部がクサビ緊  
結式足場「ダーウィン」、下部がH形鋼を用いた  
基礎部材、自走装置を備えた駆動部材)

場材を利用したトンネル工事向け仮設シート台車「ダーウィン台車」を共同開発したと発表された。仮設材を活用することでトンネル工事現場のコスト低減や短納期化を図る。来年には約30現場の採用を視野に入れ、「2年後にはシェア50%を目指していきたい」(小林社長)方針だ。

共同開発で初段製品という位置づけとなる。日本のトンネル工事は毎年100本近くが発注され、全国で200以上の現場が常時稼働しているという。日建リース工業の全国60拠点の販売網を生かしつつ、拡販を図っていく。従来のシート台車と比べ、コストは半減する見込み。

基礎部材、自走装置を備えた駆動部材で構成する。H形鋼は200×100mmのサイズを用いており、使用量は75〜80平方メートルの現場で5t程度を想定。日建リース工業が部材調達を担い、各現場に供給していく。H形鋼は電炉製品を使用し「複数社に見積もりを依頼している」(東宏の添田良介副社長)段階だ。

「コンクリート型枠」と分けられるのが一般的。ただ、防水シートの設置時に必要とするシート台車は、現場ごとにオーダーメイドであり、納期長期化やコスト面のデメリットも多いため、今回の仮設材を活用した新製品開発へと至った。

東宏は今年9月に大林組や国際神、バルフ商事と共同で「NATM用長尺防水シート工法」を開発。こうした長尺用防水シートを含めた拡販も進めていく。

新設トンネル工事の施工プロセスは、工事の最先端箇所である「切羽」に加え「インバート」「防水シート」